

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500046		
法人名	株式会社 やさか		
事業所名	グループホーム あんき		
所在地	岐阜県中津川市坂下931-1		
自己評価作成日	平成21年12月24日	評価結果市町村受理日	平成22年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	平成21年度は外部評価調査のための、基本情報票をご覧ください
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の自主性を尊重して、説得や否定をせず、こちらの感性で決めつけない。嫌がる事は一切しないという大前提を立てています。職員の業務に極力役割を決めないことで、利用者の些細なニーズにも臨機応変に対応していけるようなケアを。また地域に根差した事業所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

工場の跡地を利用し、広い庭と地元の木材をふんだんに使用した平屋建てのゆったりとした静かな環境の中で店などに近く、交通の便利も良いホームである。先駆的に取り組んできたグループホームで2年間の管理者教育を受けた若い管理者を中心に、中核病院と連携を取りながら、高齢化の進む地域の介護サービスを支える新しいグループホームである。利用者の主体性が尊重され、安心して日常生活を送り、生活の質を高め、利用者のもっている力を信じて引き出し、そして、利用者一人ひとりの個性に合わせた創造的な認知症ケアを目指して、職員とともにあたたかいホームを築き上げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の振り返りの中で、管理者の私は常に念頭に置いているつもりではありますが、全職員への共有と実践はまだまだです。	利用者一人ひとりの個性に合わせた「あんき」ならではの認知症ケアを目指し、日々の業務で話し合いの場を設けている。利用者が住み慣れた地域で安心した生活が継続できるように職員が日々工夫しながら理念の実践に努力している。	職員と理念を共有する場をより多く持ち、その実践につなげた運営に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所としては力を入れているつもりなのですが、今月行われた運営推進会議でも、地域の方から「ちょっと遠い存在」との言葉を頂きました。まだまだという感じです。	開設時、地域に理解してもらうため、話し合いの場を数回重ね、地元の中核病院長にも応援・協力してもらい、ようやく開設となった。今では地域にすっかり溶け込み、地域行事への参加や朝・夕の散歩時のあいさつ、週1回の介護予防教室などに取り組んでいる。地域にも便りを配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加で、認知症に対する理解を深めようと活動している。また、市からの委託事業の実施など、持てる力を地域の為に生かそうという取り組みをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は意見を出しやすい良い雰囲気で行われている。そこで出された意見は真摯に受け止め、改善・向上に向けて努力している。	2ヶ月に1回、会議が行われ、民生委員や町内会長、近所、家族が気軽に意見交換を行い、ホームからの報告やイベントの協力依頼、課題等を検討している。近所や利用者が立ち寄りそうな店、その他関係各所にホーム名と連絡先を配布してあり、利用者が無事に戻れたこともあった。	市担当者の参加は少なく、地域包括支援センターの参加はないため、行政の参加を得られるよう働きかけられたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険室担当者には、判断に迷ったりする場合は相談をし、常に市町村の考えや判断を仰ぐようにしている。	市の担当者と連携はとれ、常時相談を行い、情報を得ている。市からの委託による介護予防教室を毎週開催し、職員が講師や介護指導係を担っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の自由を尊重している。身体拘束に関しては、研修を行っておらず、今後職員に対して行って行きたい。	玄関は常時開放され、いつでも外出できる。利用者の自由な行動も阻害せず見守りを大切にしている。また、近隣市町村の事業所も対象に、身体拘束についての職員研修を3月に開催する予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の内外における権利擁護の研修は今後行って行く予定である。		

岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のシンポジウムへの参加など、管理者は学ぶ機会をもっているが、他の職員への研修は不十分。制度の活用は不十分。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議がこれに当たる。	家族の来訪時や電話で話した時などに、意見や要望を聞いている。利用者の温泉に出かけたいという希望を家族の協力を得て実行し、感謝された事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月末に職員会議を行い、ケアの方法から運営に至るまで時間をかけて提案を聞く機会を設けている。	管理者は職員の個性や特性を大切に、常に会議やミーティングに気軽に意見が言える体制をとっている。毎月職員から議題を求め、待遇や労働条件、ケア内容等の話し合いをしている。	さらに、自己評価の取り組みは、職員の意見を聞く良い機会と捉え、次回は職員全員で評価作成に取り組まれたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力を評価する機会として、毎日ミーティングを行い、振り返りを行っている。給与や労働時間においても、可能なかぎり相談にのっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修は不十分であり、来年度から県の複数事業所連携事業等の助成を受けながら実施していく予定である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のG.H.間の交流は不十分と感じており、これから力を入れてサービスの向上に努めていきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の言葉に耳を傾け、要望に応えるということを何よりも優先している。その為に時間も確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの導入段階では、時間をかけて家族の話聞くようにしている。また、グループホームという事業所の理解を求めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時、G.H.利用が妥当ではないと判断した場合、在宅のケアマネージャーと連携し、本人・家族により本人に適したサービスを勧める事がある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から学ぶという姿勢で、暮らしの中では利用者を助け、また助けられながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回の通院や衣替えなど、家族が介護に参加出来る機会を作り、本人とのつながりを大切にもらう。ただ、家族に無理のない範囲を心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めている。家に居た時と同じように地域の行事に参加している利用者もいる。本人が望んでいると、家族に理解を求めているものの難しい事例もある。	利用者の一人ひとりの生活や個性を尊重し、関係を切らないように支援している。毎月の同窓会や水墨画教室に参加したり、また、家族の協力を得ながら、利用者の思いが叶うように計画をたてている。	利用者の思いと家族の意見が食い違い、支援に苦慮したケースを課題に、家族との関係をあり方を、管理者と職員で十分話し合われたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の自主性と個人の要望への対応に力を入れているが、団欒という事も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点では、不十分である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	もっとも力を入れている。	職員が利用者1人ひとりの行動をよく観察し、これまでのその人の生活歴と照らし合わせ、職員の一方的な思い込みで判断しないように、常に情報を共有しながら利用者の意向把握に努めている。ホームがケアの中で一番重点を置いている部分でもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の関わりや家族からの聞き取りなどで把握に努めている。ケアマネジメントに生かしているかは不十分。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の中でつつい忘れがちになる部分で、不十分といえます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人のサービス担当者会議への参加がこれから取り組んでいきたい課題です。	家族や利用者の思いや要望を詳細に聞き取り、介護計画に反映させている。見直しは定期的に行い、急変時は柔軟に計画の修正をしている。	サービス担当者会議へ家族や本人が参加してもらい取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はこまめではあるが、要点の整理やケアマネジメントへの反映などという点ではまだ不十分であり、これから力を入れていきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援に取り組んでいる。		

岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだまだ不十分である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームは本人の在宅生活の延長線であり、かかりつけ医は在宅の時と同じ医院でもかまわない。本人・家族に選んでもらう。	利用者や家族が希望する病院での受診を支援している。1名のみホームで往診を受け、他の利用者は家族が同行し、通院している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に訪問看護師に健康チェックに来てもらい、健康上の相談をしている。訪問看護師の勧めにより受診する事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	不十分である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の指針はあるものの、取組としてはまだまだ不十分である。職員への研修も行っていきたい。	看取り、終末期の指針は作成されているが、ホームとしてこれから取り組みたい課題となっている。	終末期対応の職員研修の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修が不十分である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に2回の避難訓練を行っている。また、地域の方にも協力と参加を呼び掛けている。	スプリンクラーは設置されている。消防署の指導のもとで年に2回の避難訓練が行われ、住民参加の消火訓練も実施している。地域との防災協定はできており、次回には地元の消防団にも参加してもらう予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの介助では陰部にタオルをかける。排泄に関するキーワードを人前で言わないなど、当たり前への対応を心がけている。	居室に入室する際は、必ず利用者の承諾を得ること、利用者が不在で入室が必要な場合は職員1人では入らない等、居室は利用者のプライバシーの場所であるという認識で対応している。排泄の粗相は、その人のプライドや周囲に十分配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が、ありのままに居られる環境作りに配慮できるよう努力している。その中で、外出など自主性にまかせている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	もっとも力をいれている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容。外出時のおしゃれなどは声をかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は献立があり、利用者に相談する機会が減っている。準備と片づけは一緒に行っているし、利用者が主体的に行ってくれる事もある。希望によりメニューの変更・外食はあります。	食事の準備は、利用者の体力に配慮しながら出来ることを、職員と会話しながら行っている。食事中も味加減などを話題にしながらか職員が会話の糸口を導き、話を盛り上げている。利用者の希望により、月に1回は外食もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量には十分注意している。食事が摂取出来ない利用者には代替食も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は行えていない。就寝前に声かけ・介助している。		

岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を中心にしている。 失禁のある方には本人の尊厳に配慮した対応を心がけている。	排泄のパターンをチェックしており、職員の日頃の努力により、排泄に全介助が必要だった人が一部の介助で済むようになったり、紙パンツからパッドの使用で日常生活を送れるようになり、利用者の表情が明るくなった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自力でトイレに行く方がほとんどであり、排便のチェックは課題である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施しており、毎日入れるようにしている。	地元の木材を使った特注の浴槽で、旅館風にゆったりと入浴を楽しんでもらえるように支援している。毎日入浴ができ、入りたい人がいつでも入浴できる体制となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も休みたいと休んでしまわれる人の昼夜逆転がある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は手渡すが、飲み込むまでしっかり確認している。症状の変化があれば、毎週水曜日に訪問看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的な外出や行事などを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援には力をいれており、一人ひとりの希望にそって戸外に出かけている。	一人ひとりの希望により、外出、散歩、買い物などに対応している。家族の協力を得て利用者の望む場所へ出かけているが、家族や親族の理解が得られず実現できない場合もある。	

岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解が得られる範囲で行っているものの、難しい部分が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望あれば対応している。家族との文通を行っている人もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	座るソファを質感の違うものを用意したり、天窓を取り入れて自然な光を入れるなどしている。 季節に応じて模様替えを行い、職員の雑談などの雑音がない空間を心がけている。	太い大黒柱、高い天窓、広い共同空間にボランティアと利用者による陶器の作品が置かれている。ベランダには切り干し大根がのれんのように吊るされ生活感や季節感を大切にしている。昼間は居心地よい居間で利用者同士が会話を楽しみ、それぞれ自分の居場所がある。	居心地よい居間と比較すると、廊下は寒く感じられた。利用者の声を聞きながら、寒暖の差の環境を工夫されたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性なども考慮しながら共同生活で孤立する方が出ないように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るかぎり、家具などは新しいものは購入せず在宅にあった使い慣れたものを持ってきてもらうようにしている。自分の部屋という意識をしっかりとってもらえるようにむやみに訪室しないようにしている。	利用者が使いやすいように家具やベッドが配置されている。昼間、居室は、ほとんど使用せず、共同の居間で利用者同士の会話を楽しんだり、それぞれ自分の居場所がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り本人の「自ら選択し、自ら決めて、自ら責任をとる」といった生活をサポートする援助を心がけている。職員は「手は出さず・口は出さず・目は離さず」		